活力とあたたかさあふれる市政を実現する会NEWS　vol. 2

前かすみがうら市議会議員　　まちづくりサポーター

みやじま謙　特別対談　須永和義

本号では、前かすみがうら市議会議員のみやじま謙さんと、長年にわたってボランティアとしてまちづくり活動を行っている須永和義さんのお二人による「まちづくり対談」を掲載いたします。
これからのかすみがうら市の目指すべき方向性、くらし満足度が高まるまちづくりなど、活力とあたたかさ溢れる市政を実現するための両氏の熱い思いを語り合っていただきました。

PTA活動がはじまり

宮嶋　須永さんはまちづくりに関する様々な活動をされていますが、きっかけは何だったんですか？

須永　子どもが小学校３年生の時にＰＴＡの役員を引き受けたことが始まりなんですが、いざ学校現場に入ってみて、様々な問題点が見えてきたんです。

宮嶋　たとえばどんなことですか？

須永　当時、小学校の校舎の老朽化が進んでいてとても危険だったんですが、市の予算の関係か、なかなか改善されなかったです。

宮嶋　危険な状態が続いていたんですね。

須永　そこで保護者の皆さんに声掛けをして、署名集めを行い、市に掛け合ったんです。その後、いくつかの紆余曲折を経て、全面的な改修が実現しました。

宮嶋　学校では毎年、必要な予算を市に要求するんですが、残念ながら十分な予算は認められません。先生方もとてもご苦労されていると聞いています。

須永　あの時の活動は、学校と保護者の皆さんとの力が合わさった好例だと思います。子どもたちの安全を高めることができました。

30人学級を目指して

宮嶋　三校連支援ボランティアでの活動もやっていますね。

須永　はい、これは下稲吉中学校、下稲吉小学校、下稲吉東小学校の三校の子どもたちを対象としたボランティア団体です。

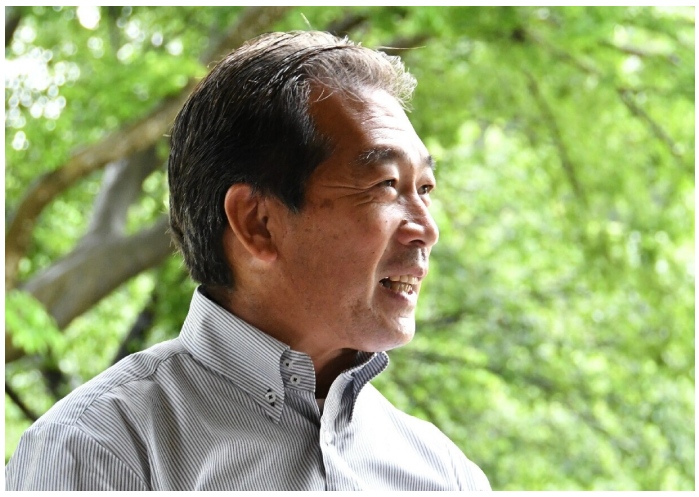
宮嶋　具体的にはどのような活動をしているんですか？

須永　毎週土曜日に行っている学習広場や学校の授業支援、いろいろな体験教室の運営なども行っています。

宮嶋　学校統合が進む中で、いかにきめ細やかな学習指導ができるか、大きな課題だと思います。今、小学校では40人学級という基準を数年かけて35人学級にしていく計画を進めていますが、私はこれをさらに進め、30人学級を実現したいと考えています。

宮嶋　謙（みやじまけん）プロフィール

１９６３年８月８日生まれ（５８歳）
明治学院高校、明治学院大学進学後（中退）、印刷会社勤務を経て出版業界へ（政治、経済、健康、スポーツ、教養など様々な雑誌を担当）
2010年、結婚により宮嶋姓となり、家業の牧場に就業。
2015年、かすみがうら市議会に挑戦、初当選
2018年、かすみがうら市長選挙に立候補するも惜敗。
2019年、かすみがうら市議会議員（二期、本年３月、新たな政治活動に向け辞職）
・霞ヶ浦ライオンズクラブ会長（2017-2018）
・フードバンク茨城会員
・大井川和彦後援会かすみがうら・やわら会会長



須永和義（すながかずよし）プロフィール

１９６５年７月２３日生まれ（５６歳）
千代田村立下稲吉小学校、千代田村立千代田中学校、東洋大学付属牛久高等学校卒業
2005年「下小おやじの会」の立ち上げ
2008年３月「かすみがうら市立下稲吉小学校校舎全面建て替え署名運動」発起人（10852名の署名を集めて陳情し、実現）
・下稲吉小学校第２０代PTA会長
・下稲吉中学校第１４代PTA会長
・下稲吉中学校区三校連支援ボランティア代表
・かすみがうら市国際交流協会代表
・有限会社イーストホーム代表取締役

くらし満足度ナンバーワンのまちに（宮嶋）

下中地区三校連支援ボランティア総会で挨拶する須永氏

須永　それは素晴らしいと思います。ひとりひとりの子どもにしっかりと目が行き届くことによって、その子どもに最適な教育が与えられますから。

宮嶋　誰ひとり落ちこぼれることなく、個性を健やかに伸ばせる環境を実現したいです。

多様化が進む社会

須永　最近の課題としては、外国籍の児童が増えていて、保護者の方も含めて、先生とのコミュニケーションに問題が生じています。

宮嶋　そのために須永さんたちが立ち上げたのが「かすみがうら市国際交流会」ですね。

須永　はい、昨年まで３年間の実績が評価されて、市の委託事業として認定されたこともあり、今年度からは「かすみがうら市国際交流協会」と名称も変わりました。

宮嶋　どんな活動をしているんですか？

須永　一番大きな活動は、日本語教室です。先生とのコミュニケーションの問題だけでなく、日常生活での困りごとなども多い。簡単な日本語を覚えるだけで、お互いの理解不足によるトラブルを避けることができますから、日々の安心感が高まります。

宮嶋　それは、非常に大切な取り組みですね。かすみがうら市もどんどん国際化、多様化が進みます。そこで大切なのは異質なものを排除するのではなく、相互理解を深めることだと思います。

須永　昨年はコロナの影響でイベントはできませんでしたが、クリスマス会や日帰り旅行なども企画して、交流を重ねています。お互いを良く知ること、それが全ての基本だと思っています。

宮嶋　同感です。人の交流はまちの活力です。あたたかなふれあいが増えるほど、くらし満足度は高まります。

地域の連携が必要

宮嶋　ところで、行政との関わりについてはどう感じていますか？

須永　まちづくりに取り組む組織は、私たちのようなボランティア団体のほか、社会福祉協議会、防災組織、ＮＰＯなどいろいろありますが、それを連携させる機能が欲しいです。

宮嶋　確かにそれは必要です。私は、中学校区ごとに「まちづくり協議会」を設置して、地域ごとに組織が連携でき、問題点を共有する仕組みを導入すべきだと考えています。

須永　いいですね。

宮嶋　そして、地域ごとの問題点を解消するために、行政は地域からの声を吸い上げ、その地域に合った予算編成をする。そうすれば、個性的でくらしやすいまちにどんどん変わっていきます。

須永　それと、誰もがいつでも活動を始められるような環境づくりにも力を入れていただきたいと思っています。

宮嶋　例えばボランティアセンターなどを創設して、ボランティア活動のスタートアップ支援や、会議室やコピー機を自由に使えるようにするなど、市民活動がより簡単に、より活発になる環境づくりに取り組みたいです。

須永　ぜひ実現してください。ボランティアをする人、支援を受ける人、それぞれが生きがいを感じられるような、市民が主役のまちづくりが理想です。

宮嶋　これからも活動の輪を広げてください。私も市民の皆さんとともに、くらし満足度ナンバーワンのまちを目指して頑張ります！

日本語教室の様子。日本語を教えながら相互理解を深める

市民が主役のまちづくりが理想です（須永）